

(4) 移動無線

昭和27年6月、日和田-平間154KV送電線の保守用として150MHz帯のFM式移動無線が全国に普及して実用化された。以後、設備の近代化、保守の機動化の一端として、送配電線路保守用無線は遂に拡張増強され、昭和36年に全保線所、昭和39年に旧営業所51ヶ所のすべてに設置が完了した。

昭和28年、送電線パトロール用としてヘリコプターの導入に伴い、航空保安用と送電線パトロール用のヘリコプター無線が採用された。昭和36年からは、小型軽量、信頼度向上としてのトランジスタ化が行われ昭和44年度には設備の約90%が固体化された。

移動無線のサービスエリア拡大のため、補助基地局を設置する自動中継局方式として昭和33年11月に太陽電池を使用した信夫山無人局、昭和34年11月に矢立保線駐在所の半無人局、昭和36年12月にPDによる電源を使用した西山無人局、昭和43年3月、同一周波数で中継を行なうシーソーレピーターおよび太陽電池を使用した通風無人局等が設置された。指向性空中線の利得を利用したものとして、昭和38年11月に5素子八木形空中線を機械的に回転させて使用する空中線回転装置が宮古保線基地局に採用された。昭和41年12月、3~4方向向けの八木形空中線を電氣的自動的に切換えて使用する空中線自動切換装置が米沢営業所基地局に初めて使用された。

自動車の位置を自動的に表示するAPI装置および個別呼出しを行なうベルボーイ装置が昭和45年8月、仙台営業所に設置された。

昭和44年、45年の営業機関および送電所の組織整備と無線局の増加に伴い、移動無線の広域運用態勢整備のため、昭和45年9月、6波の新波割当てを受けて周波数再配置を実施し、多周波切替無線機の採用の計画